

AEON PRESS

Summer / Autumn 2014 Vol.33

The Importance of Learning English and Why it Should be Fun

英語学習の重要性、そして英語学習が楽しい理由



PROFILE

ETS 国際教育部門
副社長兼 COO

デーヴィッド・
ペイン氏

Educational Testing Service (ETS) は、1947年に設立され、米国ニュージャージー州プリンストンに拠点を置き、TOEICやTOEFL、SAT（全米大学入学共通試験）、GRE（大学院入学共通試験）を含む約200のテストプログラムを開発している世界最大の非営利テスト開発機構。ペイン氏は、国際教育部門の副社長兼COOとして、GREやTOEFLプログラムを統括している。2011年には、GREの問題形式やスコア基準の改定を監督し、過去60年間のテスト評価に大きな変化をもたらした。国内外問わず大学機関や専門的研究機関市場でのテスト評価のニーズ特定に貢献している。

教育やビジネスにおいて英語が国際語となった今、かつてないほど多くの方が世界中で英語を学習しています。私もETS (Educational Testing Service) の使命は、世界中の人々の学びを推進し、教育と専門能力の向上を支援することです。私もは学習者の皆さんが抱えている、英語圏での進学や就職といった夢を叶えるおための手伝いを精一杯しております。

英語需要は、英語試験として世界で最も広く認識され、利用されているTOEFLやTOEICテストの受験者数の増加を見れば明らかです。私もETSがこのテストを作成していますので、これをお読みになっている皆さんは、英語学習の重要性となぜ英語学習が楽しいかという点における、私どもの見解にご興味がおありかもしれません。

1964年の作成以来、何十万人もの日本人を含む2700万人以上がTOEFLを受験しています。TOEICは、日本では1970年代にスタートし、2013年だけでも700万人以上が受験しました。「最良の英語学習法は何か？英語学習はどうしてこんなに大変なのか？」ETSで英語の各種試験プログラムに携わっていると、よくこう聞かれます。そんな時私は、「どの第二言語も学ぶのは難しいが、楽しくできないわけではない」と言っています。新しい言語を習得するカギは、小さい頃から母語の発達に重きを置きながら、その言語に触れる機会を多く持つことです。

学校での早期英語教育を導入している国が増えています。日本では小学校5年生から英語を学び始め、中学校・高等学校でさらに徹底した英語教育を受けます。小学校での英語教育の導入を3年生からにすると文部科学省の決定は、早期英語教育における前進と言えるでしょう。しかし、英語学習を始める時期にかかわらず、最良の英語学習法には、魅力的な教材と優秀な教師、「リスニング・リーディング・スピーキング・ライティング」の4技能を活用して日常会話力を高める機会が欠かせません。イーオンは40年以上かけて、日本でトップクラスの英語教育機関の1つとして大きく成長しました。イーオンには学習者を惹きつける熟練した技があります。

昨年の秋、ETSのマスターインストラクターが2名来日し、各地でイーオン教師の研修を担当している本部トレーナー陣に向けて、TOEFLのプロペルワークショップ (Propell Workshop) を開催しました。実際にTOEICやTOEFLの開発をしている、この2名のマスターインストラクターの集中講座を通じて、参加したトレーナー陣はとても効果的な新指導技術を身につけました。その技術は、統合技能アプローチを活用するもので、第二言語として英語を学習する日本の生徒が、目標スコアを取るために役立つでしょう。また最近では、ETSの子会社であり、英語学習ソリューション提供のパイオニアの1つであるEdusoftがイーオンとオンラインのアカデミック・リーディングコース「パワーアップリーディング (Power Up Reading)」をイーオン生のために作成いたしました。これはイーオンのセルフスタディプログラムの1つで、進捗をイーオン教師が確認してくれます。3ヶ月間で修了するコースで、12回の中級の長文読解と修了テストが付いています。イーオン教師には、受講生の進捗がわかる週毎の個別レポートが届き、受講生は受講期間中EdusoftのDiscoveries Magazine (様々なトピックを扱った英語記事) に自由にアクセスできます。

日本は今、激動の時代を迎えています。私もETSが抱える語学専門家は、日本政府における最近の教育改革の取り組みを常にチェックし見守っています。そして、日本の学習者、教師、専門家の皆さんが英語コミュニケーション力、ひいては、国際競争力を上げるサポートをするのを楽しみにしています。

※英語原文は、イーオン通信オンライン版に掲載しています (2014年12月28日まで) <http://www.aeonet.co.jp/pdf/AeonPress.pdf>